



わたし、アナタ、min-na

No. 2

# そのすがたがうれしい

## 国際交流 (1)

令和4年(2022年) 4月 8日 市立札幌開成中等教育学校便り  
〒065-8558 札幌市東区北22条東21丁目1-1  
TEL 011-788-6987(代表) FAX 011-781-5629  
HP <http://www.kaisei-s.sapporo-c.ed.jp/>

### Hello, everyone! キャリア支援部・国際担当です!

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。2年～6年のみなさん、Welcome back to school! 開成中等教育学校では、生徒の皆さんの国際的な視野を広げるための様々な学びの場を提供しています。私たちキャリア支援部・国際担当は、皆さんの活動の場を広げるお手伝いをしています。1階「国際交流ラウンジ」では、留学や国際交流、海外進学奨学金等の情報やパンフレット類を随時掲示・展示するとともに、開成の皆さんの国際交流の活躍の様子をお知らせしています。また、姉妹校や海外からの来校者から頂いたお土産も展示しています。国際的な雰囲気を楽しんでください。「留学してみたい」「海外の人々の生活を知りたい」「交流してみたい」など、キャリア支援部・国際担当:三角・藤井・大谷までぜひ声をかけてくださいね。



### 高校生平和大使、「1万人署名活動」実施

3月26日の午後、寒空の中、5年生の高校生平和大使が中心となり、3,4年生の生徒2名とともに、核兵器の廃絶と、戦禍の真っ只中にあるウクライナの平和を祈って、札幌駅前では署名活動を行いました。街を歩く人、一人ひとりに向かって丁寧に署名の呼びかけをしていました。集めた署名は、本校に在籍する高校生平和大使2名が、3月末に外務省に、責任を持って届けました。また、この署名活動をNHKが取材し、夕方のニュースで放送されました。



(左)署名を呼びかける様子(右)NHK取材班

❗ 2022年北海道高校生平和大使の募集が開始しました(4/30締切)。詳細は国際交流コーナー。

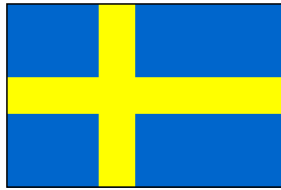
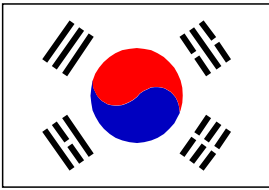
### 今年度もカナダのIB校と オンライン交流実施!

昨年度から引き続き、カナダのIB校 Port Moody の日本語クラブ生徒とオンライン交流を行います。初回交流日は4/26(火)朝!  
参加希望者は、4/15(金)朝 8:00 に数学1教室に集合!(国際交流班生徒も含む)  
※今回は2年生以上の生徒を対象とします

### 留学希望者への相談会

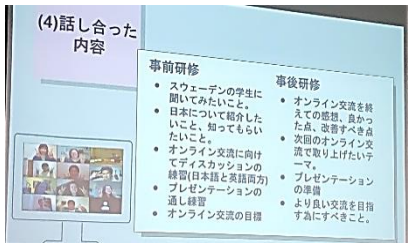
高校生交換留学(2023年出発)や中高生対象:短期・長期留学の募集案内などが続々と届いています。個別相談やオンラインでの相談も実施しています。詳細は、1F国際交流コーナーの掲示板をCHECK!  
(国際交流コーナーがリニューアルしました。活用してくださいね!)

# 2021年度「高校生・世界の架け橋事業」参加生徒の報告会



HIECC(北海道国際交流・協力総合センター)主催の 2 つの事業の報告会が 3 月 26 日(土)に「かでの 2.7」で開催されました。開成からは「済州青少年フォーラム(韓国)」に 4 名、「北欧青年交流(スウェーデン)」に 2 名が

北海道の代表として活動、昨年度秋から事前研修を開始し、冬に海外高校生とオンラインで交流、事後研修を経てこの日の発表に臨みました。報告会では各自が担当した項目(各国の教育制度、学校生活、環境問題など)に対して考えを深めるとともに、「英語力や積極性の重要性」「国際的視野を持って日本を客観視する力」「創造的な学習の面白さ」「仲間との出会い」など多くの事を学んだことが伝わってきました。次は皆さんも応募・参加してみたいはいかがですか？



## 「北欧青年交流」に参加して 5年 S・Kさん

1月上旬から3月末にかけて、私は北海道国際交流・協力センター主催の北欧青年交流事業に参加しました。約3ヶ月間で計3回、北海道から集まった5人の高校生と、スウェーデンの4人の高校生で、お互いの食文化や学校生活についてのプレゼンテーション、環境・ジェンダー問題についてのディスカッションなどをオンラインで行いました。

1回の交流は2時間程と本当に短い時間でしたが、そのための準備過程や実際にスウェーデンの方と言葉を交わすことで得られた多くが、私にとって特別なものになったと感じています。

スウェーデンはSDGs世界ランキング1位の国ということもあり、環境問題への意識が非常に高く、実際に聞いた対策や取り組みも新鮮で画期的なものばかりでした。内容は勿論ですが、私がそれ以上に驚いたのは、スウェーデンの生徒さんが同じ高校生とは思えないほど知的で、自分の意見をしっかり持って積極的に社会参加をしていたことです。同時に、私がいかに日本の抱える課題や取り組みに対して無知であるかに気付かされ、事前の準備不足と、上手く説明できないもどかしさも感じました。

最も印象的だったのは、最後の交流で「大学進学はどの程度重要か」というテーマで話し合ったことです。私たちにとっては、高校を卒業したら大学に進学するという考え方が一般的だと思います。特別やりたい事や興味のある方向性が決まっていなくても、とりあえず進学のために勉強しなければならないような風潮は少なからず存在するという話をしました。一方のスウェーデンでは、自分の将来や住みたい場所が決まるまで大学には行かず、社会に出て経験を積んだり、旅行に出かけたりする人も多いそうです。依然として、学歴による収入の格差問題はスウェーデンでも顕著だと言いますが、それに関わらず「学歴よりも好きなことを重視し、自分に合わない道ならやめる」という意思をもっているスウェーデンの生徒さんの、真率で大らかな人柄が素敵だなと感じた日でした。



実際に会うことが出来ないのはとても残念ですが、この事業を通して自分の中で沢山の気付きや新たな考えが生まれ、挑戦してよかったと思っています。いつか必ず、実際に現地に行って学びたいです。

(2022年3月記事寄稿)

